

歴史的風致形成建造物 指定台帳

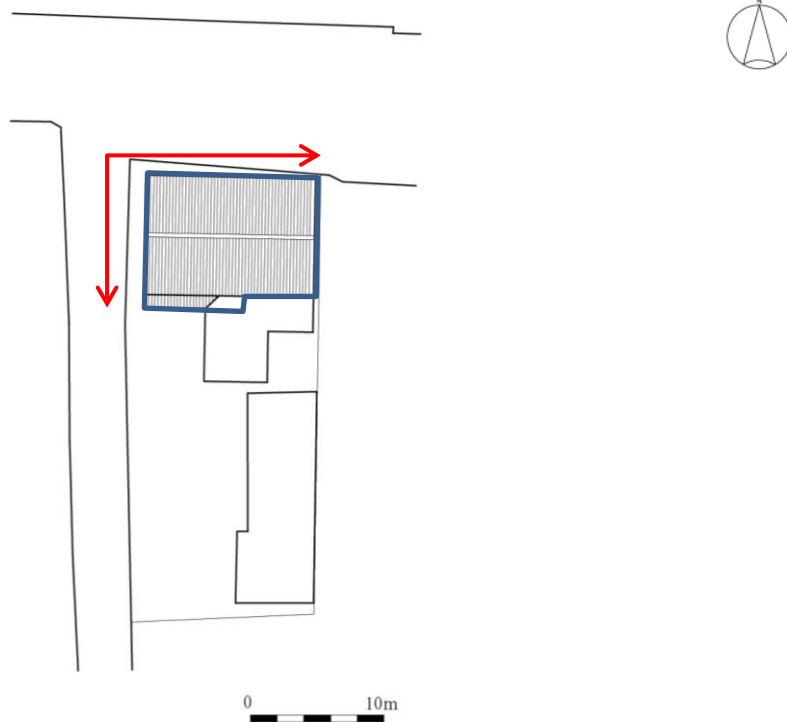
指定番号	30	名称	中島家住宅	
指定年月日	R3.3.29	所在地 (指定地)	奈良市芝辻町 850 番地	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	昭和 30 年代中頃	木造つし二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>奈良町の北西部に位置する芝辻町は、中世奈良三市の北市の南にあり、芝辻町の名は当時柴の市がたったことに由来するといわれている。奈良町周縁部にあつて農家が分布していた場所であり、現在も通りには農家住宅や間口の広い町家がよく残っている。</p> <p>敷地は東西通りに南からの通路が突き当たるT字路の南東角にあり、主屋・渡廊下・離れ・附属屋等が建つ。現所有者の曾祖父の代に、天理の大工に頼んで、草葺であった住宅を建て替えたものと伝わり、昭和 30 年代中頃の、建設から間もない頃に撮影したとみられる古写真が残っているので、この頃に建てられたとみてよい。5 年程前までは現所有者の祖母が居住していたが、その後は空家となり、現所有者が改修して居住を予定している。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>東西通りに北面して建つ主屋は、間口が広い木造つし二階建てで、正面 1 階は奥行半間の下屋がつく。正面外観は、東側に勝手口の片引き格子戸と玄関の引違い格子戸を構え、中央には腰高のガラス窓の外側に銅製の棒格子、西側には平格子を構える。外壁は黒漆喰の上に灰色の塗料を塗り、腰を人造石洗出し仕上げとするのを基本とするが、中央のガラス窓が入る部分の腰はスクラッチタイル風のタイルを張る。このタイルは玄関の足元にも使用されており、外観のアクセントになっている。令和 2 年度の修理で割れが見られたタイルを類似のタイルに張り替えたが、戸口の東側壁面の足元のタイルは当初のものが残る。</p> <p>内部は、令和 2 年度の修理の際に改修され、耐力壁などによる補強を行っているが、田の字型の農家から発展した平面構成は残り、下手の応接室が階段室に、廊下・4 畳半間は土間後方にあつた居室と一体の DK に、上手の仏間・8 畳の座敷はそれぞれリビングになっている。座敷の床の間の網代天井などに数寄屋風の意匠がみられ、付書院の欄間には趣向を凝らした組子細工が入る。つし二階は、登り梁を用いた広い空間を間仕切りし居室化している。</p> <p>改修履歴) 昭和 45～50 年頃：内部改修（台所・つし）、令和 2 年度：屋根葺替、タイル張替、漆喰塗替、一部木製建具新調、側面杉板張りに張替、内部改修</p>			
活用	住宅として活用予定			
価値	全体的に整った意匠で、農家から発展した住宅の様子をよく示す点は、昭和中期の奈良の人々の暮らしの移り変わりを反映しており、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



-  該当建造物
-  公開範囲

配置図